

令和 6 年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

令和 7 年 9 月

はじめに

下呂市では、下呂市第二次総合計画の教育分野において、「生きる力や豊かな文化を育みます」の基本理念のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

下呂市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、施策及び事務事業に関する点検・評価を実施し、報告書を作成しています。

令和7年9月

下呂市教育委員会

令和6年度

「下呂市こども園・小・中学校における教育指導の方針と重点」についての

点検・評価

1 方針及び設定指標に係る点検・評価

【基本方針】

ふるさとの風を感じ、未来に向かってたくましく生き抜く人の育成

【令和6年度の重点】

- ・こども園、小中学校、家庭、地域の連携を強化し、未来に向かってたくましく生きぬく人づくり
- ・児童生徒一人一人の「命」を守り、誰もが「存在感」を感じられる学校づくり
- ・自己のよさが発揮でき、指導力と専門性の向上を目指し、学び続けられる職場環境づくり

【指標】たくましい子をはぐくむ学校経営の指標

- ① 「学校が楽しいと答える児童生徒の割合」を90%以上にする。
- ② 「授業が分かりやすいと答える児童生徒の割合」を90%以上にする。
- ③ 「授業で学ぶことが楽しいと答える児童生徒の割合」を80%以上にする。

※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援の充実

《指標結果》

① 「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	94.8	95.2	94.9	95.5	94.7	93.8	92.5	92.8	91.6	93.4	92.6

② 「授業が分かりやすい」と答える児童生徒の割合

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	93.7	95.3	95.1	95.7	95.3	94.0	94.6	94.4	92.6	92.6	93.5

③ 「授業で学ぶことが楽しい」と答える児童生徒の割合

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標	令和元年度からの新設設定指標					80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
実績						91.4	92.4	92.1	90.7	91.7	93.1

〈総評〉

- 「学校が楽しい」が92.6%、「授業の内容が分かりやすい」が93.5%、「授業で学ぶことが楽しい」が93.1%となり、いずれも目標を超えている。その中で、90%を超えた学校は、②「授業が分かりやすい」においては、令和5年度は11校（小7校、中4校）だったのに対し令和6年度は11校（小6校、中5校）と、小学校よりも中学校の方が「授業が分かりやすい」と答えていることがわかる。また、③「授業で学ぶことが楽しい」においては、令和5年度が11校（小8校、中3校）と令和6年度は横ばい状態であった。③の「授業で学ぶことが楽しい」と答えた児童生徒が増加したのは、各学校で授業改善がなされ、児童生徒が思考を止めず自ら課題に向かって授業に向かっている成果が表れてきたことを示す。また、小学校における教科担任制や、中学校における生徒の自発的な取組の推進等、特色ある学校づくりが行われていることによって、多くの児童生徒が充実した学校生活を送れるようになってきたことを示している。
- 児童生徒が減少する中で、数値にだけ目を向けるのではなく、児童生徒一人一人の学びを深める授業改善を今後も引き続き継続していくことで「学校が楽しい」と思う児童生徒を育てていく必要がある。

2 重点に関わる評価

(1)「確かな学力」を育む指導の充実

① 学力向上、教科指導充実内容と評価

【主な取組】

- ・全国学力・学習状況調査の結果分析をもとにした授業改善
- ・学校の課題や特色に応じた指導形態の推進
- ・個別対応や専門的な指導の実施：少人数指導加配教員、教科専門加配教員配置校（萩原小、下呂小）
- ・複式学級における教科担任、中学校の免許外指導解消による授業の充実
- ・I C T（タブレット端末）を活用した授業
- ・C R T調査やQ U検査をもとにした個々の児童生徒の実態把握

【成果・評価】

全国学力・学習状況調査の結果は全国平均を上回っており、下呂市の児童生徒の学力水準は高い。このことは、「授業がわかりやすい」「授業で学ぶことが楽しい」と答える児童生徒の割合が目標値を超えていることにも関連していると考えられる。

これらの背景には、各学校の授業において、児童生徒の学びを止めない、追求し続ける姿を大切にしながら教師が指導してきたことが起因している。授業の中で、児童生徒が課題に向かって自ら考えたい方法で課題を追求し、仲間と交流する中で学びを深め、新たな発見をする喜びを多くの児童生徒が感じていると言える。

また、タブレット端末の活用が定着してきており、児童生徒が必要に応じて活用しながら個々の興味関心や能力、活動の進み具合に応じた学びができるようになってきている。「Metamoji（メタモジ）」という学習支援アプリによって、対話活動や協働学習がしやすくなり、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深めていく児童生徒が増えてきた。

6～7月の飛騨教育事務所学校職員課訪問で明らかになった課題を、10～11月の市教育委員会による学校訪問で評価・点検を行うとともに、次年度に向けた改善点について指導し、学校全体で学力の向上を図る取組を実践するよう指導した。

② 特別支援教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・指導教諭配置による各校への指導と助言及び特別支援コーディネーターの資質向上
- ・市障がい児教育支援委員会の充実による適正就学と適切な支援体制の構築
- ・市費学業支援員、県費非常勤講師配置による個別支援の充実（市費30名 県費2名）
- ・下呂市専門家チームによるこども園や小中学校への訪問派遣

【成果・評価】

□特別支援学級、通級指導教室設置状況

	知的	自閉情緒	難聴	肢体不自由	言語通級	LD/ADHD等通級
小学校（9）	9校	4校	1校		2校	4校
中学校（6）	5校	4校				

- ・令和6年度も、市費学業支援員等の配置を計画的に行った。各校においては、関係機関による指導助言や見立てをもとに保護者との相談を丁寧に行うことにより長期的な見通しをもった支援などにつなげている。また、「下呂市専門家チーム派遣」が活用され、自校の児童生徒の支援の充実につなげることができた。
- ・対象児童生徒は増加・多様化傾向にあり、保護者や児童生徒本人を、医療機関や専門機関につなげ、より適した支援を行っていくことを今後も継続していく。

(2)「豊かな心と健やかな体の育成」を図る指導の充実

① 生徒指導の充実内容と評価

【主な取組】

- ・管理職のリーダーシップのもと生徒指導体制を構築（組織対応、未然防止、早期発見と早期対応、連携）
- ・居場所と絆作りによるいじめ防止と早期発見・早期対応に関する研修の充実
- ・規範意識を高める指導の工夫と充実
- ・生徒指導研究協議会や主幹教諭による各校への指導と助言及び生徒指導主事の資質向上

【成果・評価】

□ いじめの認知件数

H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
25	117	123	108	54	87	77	126	89

- ・昨年度と比べて認知件数は37件減少した。これはいじめを早期に発見し、指導していることの結果であると捉えている。いじめの内容を見ると、暴力を使ったいじめが低年齢化している。また、SNSによるトラブルが増加しているものの、いじめに発展する前に解決をしているケースも多い。「子どもたちは間違いをしながら成長する」という認識に立ち、自分の行いを見つめさせていくことで、自身の成長につなげていくスタンスに変わりはしない。
- ・早期発見のために、学校生活アンケートや教育相談週間を年間に複数回実施し、児童生徒の思いを聞く機会をより多く設けている。
- ・「下呂市いじめ防止等対策推進条例」等に基づき、「下呂市いじめ問題専門委員会」と「下呂市いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、いじめ問題に対する組織体制を整えている。

□ 不登校

校種	小学校						中学校					
年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R1	R2	R3	R4	R5	R6
人数	4	3	7	9	17	23	17	20	28	28	42	36
1000人当たり	2.6	2.0	5.0	6.8	13.5	19.6	22.2	26.8	36.7	35.0	52.5	46.9

- ・前年度に比べ小学校は6名増加したが、中学校における出現率は減少している。これは、中学校区に「教育支援センターふらっと」を開設したことにより、児童生徒の居場所が確保されたこと、また、ふらっとでの相談員の配置が該当児童生徒や保護者の心の安定につながっていることが大きく関わっていると言える。今後も不登校や不登校傾向の児童生徒が社会性を育んでいけるよう、その子の興味関心がどこにあるかを探り、専門家やその分野のエキスパートにつなげていくことが大切であると考え。今後も引き続きこうした視点で支援を行っていく。

② 健康及び安全教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・「自分の命は自分で守る力」の育成（命を守る訓練の充実、市防災訓練への小中学生の参加）学級活動における食育や健康教育の充実
- ・食物アレルギー対応指針の啓発（保護者向け説明実施）
- ・スクールサポーター事業の継続、強化
- ・ボランティアによる見守り活動
- ・危機管理課や警察など関係者による児童生徒の通学路の点検

【成果・評価】

- ・各学校においては、安全計画に基づき年間に3回以上の命を守る訓練が実施された。各回の内容は同じものではなく、地震や火災を想定したものをはじめ、開催日を知らせないで行う抜き打ち訓練も実施している。また、これら以外にもJアラートを利用した訓練も行っており、とっさの時に判断し行動できる児童生徒が育ってきている。
- ・下呂市総合防災訓練においても、当日の午前は部活動（地域クラブ）を実施しないように各学校に依頼している。児童生徒には、各地域での訓練に参加して、地域で災害が発生した際に命を守ることの大切さを考える機会となるよう、保護者や学校を通じて啓発した。

(3) 地域に信頼され地域と共にある学校づくり

【主な取組】

- ・児童生徒や保護者、学校評議員、教職員によるアンケート調査を実施し、定期的評価・検証による教育活動を展開
- ・各校ホームページ充実（教育活動や行事の紹介（写真）や学校だより、学校評価）
- ・地域協働による子育て体制整備

【成果・課題】

令和6年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、次のような結果が出ている。（数字はすべて「当てはまる」と回答した児童生徒の割合）

- ☐ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

下呂市：小43.5%（県37.1%、全国36.8%）中44.6%（県29%、全国26.4%）

- ☐ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

下呂市：小78%（県70.2%、全国71.1%）中81.7%（県70.8%、全国68.6%）

この結果から、下呂市には地域を大切にし、地域を誇りに思っている児童生徒が多いことを示しているといえる。また、地域への活動については、全国平均と比べてとても高いことから、地域の一員としての自覚と誇りをもって生活できているとも言える。これは、地域住民が子どもたちを大切に育てていることを表している。「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合が高いのは、地域学校協働活動をはじめとして、子どもたちがボランティア活動に進んで参加する機会を作ったり、子どもたちと一緒に地域づくりを行ったりしていこうとする地域の力があるからこそだと言える。子どもたちはこうした活動を通して、地域の人々の温かさや下呂の自然の豊かさを実感している。

〈参考〉R6ボランティア人数延べ1,303人（小学生134人、ジュニアリーダー78人、中学生1,091人）

(4) 教職員の資質向上

【主な取組】

- ・教育研究所による研修事業の充実
- ・市初任者研修、2・3年目研修、初校種研修の実施
- ・市校長研修、教頭研修の実施
- ・嘱託研究員会の開催
- ・教科専門指導員、ICT指導員

【成果・評価】

- ・教科専門指導員が若手教員の授業を年間に2回以上参観し、懇談を実施した。この中で、若手教員の悩みに答えたりよりよい指導のための助言を行ったりすることができた。
- ・教育実践講座を夏季休業中に開催し、10講座を開設した。延べ345人の教職員が参加し、自身の指導力向上に努めた。
- ・教育実践論文を募集し、審査した。応募点数全10点（一般2 新人8）
研究内容として、教科に関する実践論文が多かったが、学年経営、総合的な学習、健康安全、生徒指導等、幅広く現状の問題解決に取り組んだ実践であった。

(5) 教育環境の整備と充実

- ① 育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

【主な取組】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ・育英資金活用事業 | 高校生 11 名 |
| ・要保護・準要保護就学援助事業 | 小学生 87 名、中学生 70 名 |

② 改築、修繕関係

児童・生徒の教育施設環境向上のため、以下の事業を実施した。

1. 小学校

- ・金山小学校屋内消火設備加圧ポンプ取付工事
- ・馬瀬小学校体育館倉庫整備他改修工事（令和 5 年からの繰越事業）
- ・屋内運動場 LED 化等工事实施設計業務
（萩原小、宮田小、尾崎小、下呂小、竹原小、上原小、金山小、馬瀬小）

2. 中学校

- ・萩原北中学校灯油地下タンク FRP ライニング工事
- ・萩原北・下呂中学校救助袋取替工事
- ・竹原中学校格技場屋根塗装工事
- ・特別教室の空調設置工事（下呂中、竹原中、金山中）
- ・下呂中学校屋内運動場アリーナ床改修工事实施設計業務
- ・屋内運動場 LED 化等工事实施設計業務
（萩原南中、萩原北中、小坂中、下呂中、竹原中、金山中）

令和6年度「文化財保護事業の方針と重点」についての点検・評価

■文化財保護事業の方針と重点について

1. 方針と成果指標及び評価

1-1. 下呂市第二次総合計画の内容

〔基本目標〕 2. はぐくみ

〔基本施策〕 2-4. 歴史・文化財「みんなで守ろう文化財 ふるさとの文化を受け継ぎ守ります」

〔目指すまちの姿〕

- ①文化財を活用することで、地域文化の向上発展と地域振興を図っているまち
- ②市内全域にある埋蔵文化財の位置情報の正確な記録があり、迅速な情報提供、適切な保存・保護がなされているまち
- ③博物館収蔵品が適切に保存管理され、テーマに沿って随時展示公開することで、下呂市の歴史や文化が市民に深く理解されているまち

1-2. 第二次総合計画の成果指標について

【成果指標①】 埋蔵文化財調査の実施及び調査報告書の成果公開状況

年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
目標	史跡復元イラストの作成 (鳳慈尾山大威徳寺)	成果品の有効活用	未整理と なっている 出土資料の 整理作業	未整理と なっている 出土資料の 整理作業	未整理と なっている 出土資料の 整理作業
実績	地域住民との 共同校正作業	鳳慈尾山大 威徳寺復元 図複製パネ ル地元区贈 呈	小坂・萩原・ 下呂地域の 出土資料の 整理作業実 施	小坂・萩原・ 下呂地域の 出土資料の 整理作業実 施	—

令和6年度の取り組み

- ・文化財整理作業員の活動状況：4名の作業員が年間288人日活動し、出土資料の洗浄、報告書との照合、収納等の整理作業を実施した。
- ・収蔵等設備整備事業：整理用棚160台、収納ボックス509個の導入、3階遮光カーテンの設置を実施、また収蔵庫としての利用に向けた準備（机や椅子の撤去、財産処分、用途変更届出）など、収蔵環境の整備を進めた。

【内部評価】：収蔵施設の整備は、将来的な文化財保護の基盤となる重要な取り組みである。今後も収蔵環境の整備（2階の遮光カーテン設置、温湿度管理等）を順次計画し、整理作業についても、着実に作業を進められるよう人員や予算の継続的な確保に努める。また、整理された出土資料の情報公開や活用方法についても検討を進める。⇒「目指すまちの姿②」

【成果指標②】 下呂市文化財保存活用地域計画の策定

年度	R 4	R 5	R 6	R 7
目標	近隣市町村と情報交換	基礎調査の実施 (市所蔵資料調査)	基礎調査の実施 (市所蔵資料・未指定文化財調査)	基礎調査の実施 (市所蔵資料・未指定文化財調査)
実績	文化財保存活用地域計画策定研修会 (10/24～27 小浜市)に学芸員が参加、他自治体事例の情報交換	・市内収蔵施設の収蔵環境調査 ・明治期地籍図の調査 ・文化財既往調査把握のための文献調査	・市所蔵資料、学校資料の調査 ・未指定文化財の調査(萩原地区個人所蔵、萩原地区現地調査)	—

令和6年度の取り組み

- ・学校資料の調査：市内の小中学校15校、廃校6校に所在する歴史資料の網羅的な調査を実施した。調査成果の報告と資料保全に向けた啓発を図るため、下呂ふるさと歴史記念館において学校資料をテーマにした企画展示を開催した。
- ・まち歩きイベントの開催：「ブラ萩原-萩原地区でまち歩き-」（6月29日、市民22人参加）行政資料や学校資料、個人や寺社の所蔵資料などの未指定文化財を調査研究した成果報告の一環として、江戸時代から昭和初期の古地図や古写真を手がかりに地域に遺る歴史の痕跡を探索まち歩きイベントを実施した。イベント終了後、下呂ふるさと歴史記念館にてイベントの配布資料のパネル展示、古地図や古写真の展示を行った。

【内部評価】：新たな地域資源の発掘と確実な継承のため、未指定文化財の悉皆的な把握調査を、市内小中学校および萩原町萩原地区を対象に実施した。小中学校においては調査を実施することにより、歴史的な学校資料の保全に対する意識の向上を図ることができた。萩原町萩原地区の調査成果の一部は「ブラ萩原」にも活用された。地域資料の調査に基づく「ブラ萩原」の実施は、地域の魅力を新たに見出したり、改めて掘り起こしたりすることにもつながり、今後策定を予定する「文化財保存活用地域計画」における「関連文化財群」設定の基礎的な作業にもなった。今後他の地域で同様の取り組みを継続して実施し、計画作成に役立てたい。⇒「目指すまちの姿①」

【成果指標③】 下呂ふるさと歴史記念館（博物館法に定める博物館相当施設）入館者数

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
目標	14,500	15,000	12,000	12,000	15,000	15,000	16,000
実績	17,822	10,455	10,973	15,654	14,652	13,742	—

令和6年度の取り組み

- ・企画展の開催：
特集展示「昔の道具 今の道具～遺物の使われ方を考える～」（8月1日～10月31日、75

日間、約 43 点展示)

- ・特集展示「ブラ萩原-萩原地区でまち歩き-展」（8月1日～10月31日、75日間、約8点展示）
- ・下呂市制 20 周年記念企画展「よみがえる ふるさとの学校 一下呂市内の学校資料から一」（12月3日～1月19日、37日間、約64点展示）
- ・縄文体験教室：製作体験講座（ミニチュア縄文土器、縄文土製品、古代アクセサリー）を実施し、学習機会を提供した。令和6年度の参加者数は合計 475 人（ミニチュア縄文土器 33 人、縄文土製品 97 人、古代アクセサリー345 人）
- ・各種講座：歴史講座や出張講座を 3 回実施し、地域住民、教員、小中学生ら延べ 118 名が参加し、教育普及に貢献できた。
 - 萩原小学校 6 年生総合学習出張講座（7月16日、52 人参加）
 - 下呂市教育実践講座（7月26日、教員 18 人参加）
 - 古代アクセサリー製作の出張講座（7月21日、小中学生 48 人参加）

【内部評価】：特集展「ブラ萩原」、企画展「よみがえるふるさとの学校」等の地域に根差した内容の展示会を開催した。また地域や学校と連携した講座等を実施し、学習機会の提供に取り組んだ。今後も地域の歴史・文化の拠点としての役割を果たすため、地域に根差した博物館活動を継続しながら、減少傾向にある入館者数の回復のため、PR 活動の強化、他の観光施設等との連携、資料展示の工夫を図りたい。⇒「目指すまちの姿③」

2. 主要な個別事業の方針と事業結果について

2-1. 文化財保存修理事業助成費 指定文化財の保存修理補助金 ⇒「まちの姿①」

指定文化財の不時の破損等に対し、早期に補助事業化し被害を最小限に抑えられた。

実施事業：令和6年度は3件の事業を実施した。

・白雲座の消防設備（放水銃）修繕

- 種別・名称：下呂市無形民俗文化財 白雲座の地芝居
- 事業期間：令和6年5月1日～令和6年6月13日
- 内容：凍結による破損のため、消防設備（放水銃1基）のボールコック等交換工事を実施、地芝居の継承・保存に不可欠な活動拠点である白雲座の維持に必要な修繕を実施した。

・禅昌寺庫裏雨漏り修繕工事

- 種別・名称：下呂市重要文化財（建造物） 禅昌寺本堂 他十棟
- 事業期間：令和6年8月1日～令和6年10月21日
- 内容：庫裏の屋根材の経年劣化による雨漏りのため、建造物保護のため該当箇所の銅板を葺き替えた。

・浄福寺のしだれザクラ樹勢回復事業

- 種別・名称：下呂市天然記念物 浄福寺のしだれザクラ
- 事業期間：令和7年1月20日～令和7年3月19日
- 内容：樹勢の衰えが顕著になったため、主幹の腐朽部保護、土壌改良、枯れ枝除去等の保護事業を実施した。

2-2. 指定文化財保護事業 文化財の保護にかかる取り組み ⇒「まちの姿①」

・文化財審議会の開催：

- ・ 委員 7 名
- ・ 12 月 5 日：令和 6 年度実施事業および文化財収蔵庫整備計画の報告
- ・ 3 月 5 日：文化財の民間活用について審議と現地視察、
令和 6 年度実施事業と令和 7 年度事業計画の報告

・市指定文化財の現状巡視：

- ・ 文化財保護巡視員 15 名による年 2 回の巡視を実施
- ・ 各地域に文化財保護巡視員を配置し、天然記念物や史跡等の現状について報告を求め、異常等の早期把握に努めている。
- ・ 異常報告を受けた文化財愛護標柱や説明看板については、予算の範囲内で順次更新等を行い文化財保護の啓蒙・啓発を図る。
- ・ 文化財保護巡視員からの異常報告事案に対し、以下の対応をした。
 - 11 月 25 日、樹木医による天然記念物の樹勢診断を実施（6 件）
 - 文化財の説明看板 2 枚を更新および設置(岐阜県史跡「鳳慈尾山大威徳寺跡」、下呂市重要文化財「十王堂」)。

・特別天然記念物保護業務：

- ・ ニホンカモシカの発見時対応：ニホンカモシカが発見された場合、文化財課では迅速に対応している。令和 6 年度は合計 15 件の出動、内訳は以下のとおり。
 - 10 件が死亡個体の確認及び処分
 - 4 件が捕獲・放逐対応
 - 1 件は、追い払い

※閉庁日も在宅当番制で、迅速な対応を心がけている。

- ・ オオサンショウウオの交雑問題：金山町の菅田川で行っているオオサンショウウオの生息調査では、依然として交雑個体の割合が高い状態となっている。
 - 捕獲された成体の約 4 割が交雑判定
 - 幼生では約 5 割が交雑判定

これらの交雑個体は、令和 6 年 7 月に特定外来生物に指定され、駆除が可能となった。しかし、単に駆除するのではなく、これまでに成体 28 個体、幼生 40 個体（合計 68 個体）を研究機関などに譲渡し、有効活用を図っている。

また、地域住民団体が企画した交雑個体の解剖実習にも協力し、地域住民の皆さんにこの問題を知ってもらい、保全活動への協力をお願いする良い機会となった。

・無形民俗文化財現地公開事業への助成：

重要無形民俗文化財の保存と継承のため、国重要無形民俗文化財である田の神祭、および市内 2 か所の芝居小屋で開催される地歌舞伎の現地公開にかかる経費の一部に補助金を支出し、活動支援を行った。

令和6年度「社会教育の方針と重点」についての点検・評価

1 社会教育の方針及び重点について

方針と成果指標及び評価

1-1. 下呂市第二次総合計画

[基本目標] 2 はぐくみ

[基本施策] 2-2 新たな視点で創造と感動と交流を求めて未来につながる生涯学習

[目指すまちの姿]

- 次代を担う青少年の健全な育成、地域活動のリーダーの養成、青少年の地域社会への参加の促進、子育てにも安全な地域づくりなどが、地域ぐるみでできているまち
- 市民誰もが、視野を広げ、生きがいを深める生涯学習ができているまち
- 誰もが1学習・1スポーツ・1ボランティアの、生き生きライフステージを実感できる実践活動ができているまち
- 市民一人ひとりが自立と自己育成を図ることで、自ら工夫し自らの英知と力を生かすことができているまち

1-2. 社会教育の方針と重点（R5～7）

【方針】「人をはぐくみ、こころを結び、ふるさとを創る」

人を「はぐくむ」ための「家庭」と「地域」と「学校」それぞれの「つながり」を通じて、子供から大人まで自らを高め、郷土に誇りを持ち、互いを尊重し、学び合うことで、「その学びが自身やふるさとに生かされる社会」を目指します。

【重点】

- ① 家庭教育機能の充実
- ② 地域を担う人づくり
- ③ 生涯学習活動の推進
- ④ 人権教育の推進

1-3. 第二次総合計画の成果指標について

成果指標	目標値	実績値	
	R 6	R 6	
生涯学習講座が「満足する内容で、今後も自主的に継続していきたい」と回答する受講者の割合	70.0%	62.0%	
地域学校協働活動の実施主体である地域学校協働活動本部の設置数	3本部	3本部	市内全地域11校区においてコミュニティスクール、地域学校協働活動を一体的に進めている。 1 地域学校協働活動推進協議会 2 青少年育成会議理事会 3 社会教育委員の会

1-4 重点における評価

① 家庭教育機能の充実

【主な取組】

- ◇家庭教育支援事業（赤ちゃんカフェ・子育てカフェ） 26回 269人（延べ）
- ◇親学び講座（父親参加の体験型講座を含む） 6回 95人
- ◇命のふれあい講座 市内小・中・特別支援学校 79回 1,587人（延べ）
- ◇子育て支援の連携会議による家庭教育相談体制の強化

【成果・内部評価】

「下呂市家庭教育支援チーム」や「NPO 法人サンはぎわら」などの地域団体と長年にわたり家庭教育の各事業を連携して進めており、蓄積した経験やノウハウを基に安定した事業展開ができています。

① 下呂市家庭教育支援事業（赤ちゃんカフェ・子育てカフェ）

子育てカフェは、休日開催の増や、カフェでの飲食を再開するなど、参加しやすい環境づくりに取り組み、延べ参加者数は前年比 66 人増加した。一方、赤ちゃんカフェは、働くお母さんが増えていることや、子どもの減少により参加者数が減ってきている。今後は、父親の参加や外国人の対応等も含め、運営の方法が課題となっている。

② 親学び講座

親子で様々な体験をすることを通して、親子のコミュニケーションづくりを図り、子育てのヒントとなる情報や手立てを学ぶ機会となった。

③ いのちのふれあい講座

市内小・中・特別支援学校と連携し、命の大切さ、自己肯定感の醸成、幸せの性や多様性に関する学びなどの機会をつくっている。体験や交流を通じて、子どもたちが命の重みや、将来を生き抜くための大切な価値観を育む事業として、引き続き、学校、地域と連携して実施していきたい。

② 地域を担う人づくり

【主な取組】

- ◇青少年育成市民会議
- ◇子ども会活動の推進
- ◇親子わくわく科学体験教室の開催
- ◇ふるさとジュニアサポーター活動の推進
- ◇地域学校協働活動
- ◇放課後子ども教室（上原小校区） 198回 3,780人（延べ）
- ◇交流キャンプの開催 小学生 22名参加 ジュニアリーダー6名、シニアリーダー10名運営補助

【成果・内部評価】

- ・コミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に進め、市内全地域となる11校区でそれぞれの特色を生かした活動が進められている。
- ・地域の行事において、子どもがボランティアとして活動する姿が多くみられている。下呂市の青少年育成の各事業においても、多くの中学生、高校生がボランティア参加によって実施された。子どもたちのボランティア活動が、これまでの学校と地域の連携によって定着しつつあると思われる。

① 青少年育成市民会議

少年の主張大会を開催し、各中学校の代表6名が発表。青少年育成顕彰「わかあゆ賞」の授賞式を対面にて開催。

② Wakuwakuインターナショナルフェア

海外派遣団による派遣事業の活動報告や体験を通して、子どもが外国の言語や文化に触れる機会となった。外国籍市民にも参加いただき、多文化の理解につながる機会となった。

③ 親子わくわく科学体験教室

学校や家庭では体験できない科学を通じ、子どもたちが驚きと感動の体験を味わい、親子のふれあいを深める機会。科学の楽しさを伝え広めると共に、主体的な家庭学習を促す契機となった。また、多くの中学生がボランティアとして参加し。小学生をサポートすることによって、中学生の学びにもつながっている。

④ 子ども会活動の推進

子ども会活動では、地域ごとに独自に活動を実施している。子どもの減少によって地域での活動が困難となっている。

ジュニアリーダー活動は、毎月の定例会やワークキャンプ、冬季研修会などを開催し、リーダーとしての資質の向上やジュニアリーダー同士の交流を深めることができた。

それを生かし、各地域で子ども会へのレク派遣やボランティア活動に積極的に参加し、模範となる姿を示すことができた。

⑤ 交流キャンプの開催

子どもたちが野外体験活動を通じ、共に仲間たちと交流をすることでコミュニケーション深め、たくましく生きていける術を磨いた。また、ジュニアリーダーが小学生を指導する経験を通じて、リーダーシップなど資質向上につながっている。

⑥ ふるさとジュニアサポーター活動

主に中学生が様々な地域のイベントや活動にボランティアとして参加する活動をコーディネート・支援を行った。学校と地域との連携がコミュニティスクールを中心として活発に行われるようになっている。参加した子供たちにとって自己有用感や地域への愛着を育むことにつながっている。

⑦ 地域学校協働活動

各学校区に配置する地域学校協働活動推進員を複数とすることで、さらなる推進員の協働体制をつくり、各活動の強化と継続を図っている。地域学校協働活動推進員協議会を開催し、各地域での活動の情報交換や研修を行うことにより、校区間での情報共有や交流が行うことができた。

⑧ 放課後子ども教室

上原小校区において、地域住民が主体となって運営されている。放課後の子どもたちの安全・安心な子どもの居場所を設け、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進した。

③生涯学習活動の推進

【主な取組】

- ◇生涯学習講座の開催 16回 61人（延べ）
- ◇市文化祭の開催
- ◇文化協会の活動支援
- ◇体育協会、総合型地域スポーツクラブ支援補助
- ◇全国大会等出場者激励金
- ◇公民館活動
- ◇図書館（はぎわら図書館、下呂図書館、金山図書館、小坂図書室）の運営

【成果・内部評価】

- ・市民が生涯にわたって学習する機会の一つとして生涯学習講座を開催し、参加者の満足度も高い結果となっている（「講座の内容が役に立つ」68%、「今後も続けたい&サークルに入りたい」62%、「役に立たない・面白くない」0%）。一方、開催する講座も限られている。今後は、市内に潜在する人材を活用し、より多くの学習機会を提供できる方法を検討したい。
- ・国民文化祭が開催され、多くの文化事業を実施した。フォークダンスフェスティバルに絡んで、市内の小学校の運動会での取り組みなど、新たな動きも見られた。下呂市音楽祭では、異なるジャンルでのコラボレーションをテーマとした初めての音楽イベントを市民が主体となって開催し、音楽を通じた新たな交流が生まれた。
- ・市民アンケートでは、「生涯学習や地域のボランティア、趣味の活動をしている」と回答された方は40.2%、「下呂市の文化が継承されている」と感じる方は47.3%となっている。この指標は今回からのため過去との比較はできないが、今後、この指標が向上するようさらに施策の充実を図っていく事が肝要であると考えている。

① 生涯学習講座の開催

折り紙、大正琴、絵手紙、太極拳、狂俳、ふるさと歴史、カレー作りの各講座を実施。講座終了後も趣味として続ける方もあり、新たな学びの機会を増やすことになった。

② 文化祭の開催、文化協会の活動支援

国民文化祭の事業として、全国フォークダンスフェスティバルをはじめ、下呂市音楽祭、地歌舞伎フェスティバルなどの各文化事業を開催した。市民の文化活動の発表の機会である文化祭も、国民文化祭の一環として実施した。

③ 体育協会、総合型地域スポーツクラブ支援補助、全国大会等出場者激励金

スポーツを通じた健全な肉体、精神を作りだすための活動をしていただき、市民の健康維持、運動意欲向上に寄与した。

④ 公民館活動

金山地域においては、公民館主事を配置し活動を行っている。菅田地区においては、施設の老朽化により公民館機能を移転した。

⑤ 図書館（はぎわら図書館、下呂図書館、金山図書館、小坂図書室）の運営

図書館をより身近に感じてもらい、利用を促進するため、各図書館連携して読み聞かせやスタンプラリーなどの各種イベントを実施した。また、SNSによるタイムリーな情報発信に努めた。一人当たりの貸出冊数は前年並みとなった。今後も図書サービスの向上に努め、利用者の増加を図る。

③ 人権教育の推進

【主な取組】

- ◇多様性尊重（ダイバーシティ）宣言
- ◇人権擁護委員の活動

【成果・内部評価】

5/26 下呂市市制 20 周年記念式典において、「下呂市多様性尊重（ダイバーシティ）宣言」を発表した。市民がお互いに尊重し合い、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現に向け、市民の意識向上を図った。今後は宣言を基に事業の展開を行っていく。